

自治医科大学 附属さいたま医療センター

病院の概要



- 病床数 608床
- 医師数（研修医を除く） 275名（うち指導医数 65名）
- 研修医数 1年目 24名 2年目 22名
- 研修医の主な出身大学 日本大学・日本医科大学・帝京大学・筑波大学・昭和大学・東京医科大学・埼玉医科大学・獨協医科大学・群馬大学・新潟大学・大分大学・自治医科大学
- 診療科 内科 循環器科 小児科 精神科 病理診断科 外科 心臓血管外科 脳神経外科 整形外科 泌尿器科 眼科 耳鼻咽喉科 産婦人科 皮膚科 リハビリテーション科 麻酔科 放射線科 歯科口腔外科 救急科
- 1日平均外来患者数 1358名 ● 1日平均入院患者数 489名
- 主な認定施設 労災指定病院、災害拠点病院、エイズ拠点病院、地域がん診療連携拠点病院、地域周産期母子医療センター、救命救急センター

研修プログラムの特色

「患者にとって最善の医療をめざす総合医療」と「高度先進医療をめざす専門医療」の一体化とその実践を目標としています。これまでもスーパーローテーションに近い多科研修を行ってきましたが、研修が義務化された2004年度以降においても従来の経験を生かし、かつ厚生労働省の基準案に従ったスーパーローテーション方式による臨床研修を行い、これによって幅広い医学知識と技能を有し、深い人間性に基づいた優れた臨床能力を発揮できる医師を養成しています。

当センターは幸い多くの患者様に信頼されており、その診療を通して幅広い豊富な臨床経験を積むことができ、かつ総合的な視野に立った医師を養成することが可能です。日常診療で頻繁に遭遇する病気や病態に適切に対応できるよう、プライマリ・ケアの基本的な診療能力（態度、技能、知識）を身につけるとともに、医師としての人格を涵養することを目指してプログラムを設定しています。



プログラム 例 一般プログラム（募集定員22人）内科系志望者

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目▶	内科1		内科2			内科3		救急		産婦人科		
2年目▶	地域医療	外科	麻酔科		小児科		内科4		選択			

オプションでは精神科、臨床検査科、放射線科、CCU、ICU、各診療科などから自由に選択できます。

その他 小児科プログラム（募集定員2人） 産婦人科プログラム（募集定員2人） ホスピタリスト重視プログラム（募集定員2人）

研修医の処遇

- 給与▶約390万円／年（宿日直手当、期末手当含む）
- 諸手当▶地域手当、医師手当、宿日直手当、期末手当
- 保険▶日本私立学校振興・共済事業団（健康保険・年金）、雇用保険、労災保険
- 勤務時間▶8時30分～17時15分
- 当直▶あり（約4回／月）
- 休暇▶2回／週休2日（土・日）、有給休暇 約30日／年
- 宿舎▶あり

主な臨床研修協力病院・協力施設

- ・自治医科大学附属病院
- ・さいたま市民医療センター
- ・埼玉県立精神医療センター
- ・埼玉精神神経センター
- ・南魚沼市民病院
- ・秩父市立病院
- ・小鹿野中央病院

当院のキーワード

●レジデントのある1日

- 6:30 病院着
 8:00 モーニングカンファレンス
 9:00 病棟業務（処置当番・患者診療・検査等）
 12:00 職員食堂での昼食 →→→→→ Fujimoto教授（米国ワシントン州立大学内科名誉教授）が年6回来日し、2週間の滞在中、昼休みに、英語で実施されるEBMを重視した臨床推論のカンファレンスが行われます。また、レジデントとマンツーマンのClinical Clerkshipが適宜行われます。
 13:00 病棟業務
 14:00 病棟教授回診
 15:00 処方・検査オーダー・カルテ記載・上級医とのディスカッションなど
 16:00 総合回診（毎週水曜日） →→→→→→→→→ 総合回診はレジデントがケース・プレゼンテーションを行い、臨床推論を重視して参加者との双方向性の討論がなされます。1症例に30分をかけて、プロブレムリスト、鑑別診断、必要な検査を検討した後、Q&A方式の考察が発表されます。
 17:00 患者診察・カルテ記載・ディスカッション、担当患者のサマリー記載、プレゼン準備、その他

* 初期研修医はシミュレーションセンターにて実地臨床開始前トレーニングを行っています。機器の貸出も可能であり、レジデントにとって有意義な実習となっています。



研修責任者から

自治医科大学附属さいたま医療センターは開院以来、総合医養成を主眼としたプログラムを全国でもいち早く取り入れて今日まで来ました。研修指導は屋根瓦方式を遵守することで軽微な内容から高度な指導まで可能となるきめ細やかな指導体制をとっています。厚生労働省が提唱する初期臨床研修期間中に経験すべき症例は無論のこと研修医が希望する研修内容を個別に取り入れ柔軟に対応できるプログラムを用意していますので充実した臨床研修ができます。



卒後臨床研修室長
菅原 斉

当センターの初期研修医は全国から集まっているのが特徴ですが、様々な情報を各研修医間で共有でき、研修プログラムの改善へ向けての卒後臨床研修室との意見交換を通じて常に研修内容の改訂を検討しています。また、指導医の陣容に関しても豊富な経験と業績を持つ教授・准教授スタッフなどの教職員が揃っており、皆さんの研修を支援します。

先輩研修医から

当センターにおける研修で必ずや得られるメリットをご紹介します。
 ・2016年度より救急が三次救急対応となり、救急初療にて今まで以上に幅広い患者層を診療することになりました。現在の救急では、内科の基礎だけでなく、重症内科疾患や新たに外傷患者の診療方法など実践を通し学ぶことができるため、積極性あふれるあなたにはたまらない日々が過ごせます
 ・自治医科大学という特徴もあり、大学病院でありながら、研修医の出身大学は様々であるため、新たな出会いや環境に恵まれ、好奇心の強いあなたには刺激であふれた日々が過ごせます。
 ・大宮という立地は、自由気ままなあなたの余暇を無限に広げるでしょう。



ジュニアレジデント
篠田 大悟

女性医師支援コーナー

次世代を担う医師のキャリア形成が出産・育児等により中断されることがないように就業継続のための短時間勤務制度があります。全職員対象の育児短時間勤務（所定勤務時間内において30分単位で2時間まで勤務時間を短縮）と、医師対象の短時間勤務（週20時間勤務。午前・午後をそれぞれ4時間とし、週20時間になるよう組合せ）があります。現在までに延べ27名の女性医師が短時間勤務制度を利用しています。また、職員の子の育児を支援するため、院内保育所、病児保育所を設けています。更に、育児中は（申請により）当直を免除するなど配慮しています。

連絡先

自治医科大学附属さいたま医療センター

卒後臨床研修室

〒330-8503 さいたま市大宮区天沼町1-847

TEL 048-648-5225(代表) FAX 048-648-5166

E-mail rinshoukenshu2@omiya.jichi.ac.jp

URL http://www.jichi.ac.jp/center/sotsugo/index.html

アクセス JR大宮駅東口からバスで約10分

病院見学、その他イベント・説明会等の情報

- レジナビフェアに埼玉県ブースで出展しています(3月、7月)。
- 研修内容説明会を開催しています(7・8月)。
- 病院見学は随時受け付けています。当センターホームページ(卒後臨床研修室のページ)をご覧ください。